

日刊 労働千葉

86. 1. 18

No. 2142

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五六（公衆）〇四七二二二七二〇七

2月線見阻止 労働千葉 業務移管をうちくだけ

「61・3ダイ改」は、運転・検修関係を合わせて二二八名の要員削減という文字通り首切り要員生み出しのための大合理化だ。敵は「61・3」粉碎のわれわれの第二波ストの爆発に恐れをなしているがゆえに、不当処分とからめ「61・3」において「業務移管」なる凶暴な労働千葉破壊に打って出ている。全組合員が満身に怒りをたぎらせ、検修合理化粉碎の闘い、二月線見阻止闘争を突破口に「61・3ダイ改」阻止・国鉄関連法案国会提阻止の第二波ストへ総力につき進め。

二〇三月こそ十万人首切り 攻撃阻止の決戦だ

二〇三月の闘いは、「分割・民営化」阻止・十万人首切り粉碎の具体的攻撃を打ち破るのか否か、すなわち、来年四月一日「分割・民営化」を許すのか否かのかかった決戦中の決戦だ。

中曽根・杉浦もここに焦点をしぼりこみ大攻勢に出てきている。運輸大臣に「分割・民営化」の急先鋒―三里塚を起用したのを皮切りに年末―年始にかけて卑劣な「アンケート調査」・中曽根・杉浦の「年頭の決意」再度国労との雇用安定協約の不締結表明・一月九日の五労組と三里塚の話し合い―革マル松崎の「分割・民営化」賛成、1・13「労使共同宣言」、1・14業務移管提案等々、年末からわずか二十日間あまりの間にこれだけの攻撃をかけてきている。

まさにスト禁圧、三月強行突破体制そのものだ。これに屈するわけには行かない。

労働千葉破壊が目的と公言する当局に怒りを

業務移管攻撃との対決が一大焦点である。

当局は商業新聞に「今回の決定がなされた要因は、ストへの報復が全てではないが、皆無とは言えない」と、労働千葉破壊が目的であることを公言している。

処分だけでは労働千葉をつぶせないがゆえに革マル松崎とつるみ、全く理不尽、

卑劣なやり方で労働千葉破壊を策している。まさに、不当労働行為そのものである。処分と同等の断じて許しがたい暴挙だ。あらゆる手段で断固阻止しよう。

国労東京も業務移管反対・線見非協力決定

国労東京は、この業務移管に対し、国労の分断攻撃であるとの立場から、①スジの持ちかえは容認できない。②線見訓練には一切協力しない旨の方針を決定した。国労千葉も反対を表明している。業務移管攻撃をめぐる、全労働者の怒りがわきおこっている。

われわれは、この怒りと結合し、二月線見阻止闘争を皮切りに「61・3ダイ改」―十万人首切り阻止、二月国鉄関連法案国会提阻止に向け怒りの第二波ストへ総力で決起しよう。

61・3ダイ改、乗務キロ及び作業数「現」「改」比較

	現		改		増減	
	乗務キロ	作業数	乗務キロ	作業数	乗務キロ	作業数
津沼	14,841.9	73	12,176.8	56	△2,665.1	△17
千葉	16,425.2	71	15,929.5	65	△4,957	△6
山	6,359.2	28	6,084.6	26	△274.6	△2
勝浦	6,309.8	29	6,013.4	27	△296.4	△2
銚子	7,457.4	30	7,303.2	28	△154.2	△2
成田	4,483.3	19	3,344.7	14	△1,138.6	△5
(京葉線)			(2,511.8)		(2,511.8)	
合計	55,876.8	250	50,852.2	216	△5,024.6	△34
					(△2,512.8)	